

高等部教育目標				
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う				
探究型カリキュラム教育/学習目標				
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける				
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning				
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL 型/アクション>	3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. ミニケーションを通して <自分/他者のやりとり>	5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>
上位学習目標				
<b>【知識・技能】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートの理解に必要な歴史的背景やモチーフ・技法・展示方法などを適切に用いることができる</li> <li>・社会課題や哲学的言説について理解し、アートと関連させて説明することができる</li> </ul> <b>【思考力・判断力・表現力】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートを見て感じ取ること（＝感性）を通して社会課題を多角的にクリティカルに捉え、自分の考えを構築することができる</li> <li>・物事に一つの解答を求めるのではなく、複雑なまま受け入れて熟考することができる</li> <li>・自分自身の価値観やモノの見方を俯瞰し、他との関係性のなかで相対的に意味づけることができる</li> </ul> <b>【学びに向かう力・人間性】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身を通して自由に世の中を捉えることで、自分の未来の可能性を開いていくことができる</li> <li>・他者の表現や言説を自分の価値観に照らして、主体的に想像することができる</li> <li>・作家が内省を突き詰めて作品と対峙することを追体験することで、内在する自己の有りように向き合う姿勢を身につける</li> </ul>				
下位学習目標				
<b>【知識・技能】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>①アート思考と論理思考の違いを理解し、用語として使い分けることができる。</li> <li>②対話型鑑賞や作品分析に必要な情報を集め、目的に応じて選択することができる。</li> <li>③アートにまつわる哲学的言説や時事、歴史的事実などについて自分の言葉で語ることができる。</li> </ul> <b>【思考力・判断力・表現力】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>①アートとそうでないものとの違いについて鑑賞者と作品との相対性やコンテキストによる関係性を意識して考察することができる。</li> <li>②一つのアート作品についての情報を総合し、自分なりの分析を施すことができる。</li> <li>③アートプロジェクトや文化政策、パブリックアート等を通してアートに関わる社会課題について推察し見通すことができる。</li> </ul> <b>【学びに向かう力・人間性】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>①より多くのアート作品や文献に触れようとするすることができる。</li> <li>②一つの作品やプロジェクトに関する学びに対して時間をかけることができる。</li> <li>③自らの考えを昇華させるために、他者とアートについて語り、互いの価値観を認める姿勢を身につける。</li> </ul>				

授業日	4/18(火)	1 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②③ 【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】①②③		
	本時の具体的な目標 ・イメージしていた授業の内容とガイダンスを受けて理解したアート思考の授業との違いを顕在化する ・探究的なアプローチとアート思考との違いを理解したうえで、身に着けるべき力について理解する。		
時間	5 時間目	探究科目として他教科とともに学びの特徴について理解する。	
授業内容	6 時間目	探究的なアプローチとアート思考との違いについてガイダンスする。	
評価方法	アート思考の授業では何を目標にしているのかを理解できているか、また、ガイダンスの内容を正確に把握することができているか、イメージしていたことからどのように自分の意識が変容したのかを「学びの記録」によって評価する。		
宿題指示	特になし		

授業日	4/25(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①		
	本時の具体的な目標		
	・アート思考とはどのようなものなのか、社会的状況との関係性に触れつつ、うまく整理することができる		
	・アート思考についての理解を踏まえて自分が「アート思考」をどう思うのか、具体的な指摘や疑問を呈することができる。		
時間	5 時間目	不確定な社会における M F A（芸術学修士）の役割を通してアート思考の必要性を学ぶ。	
授業内容	6 時間目	発想力を試すワークショップを通して自らの思考の状態をメタ認知する。	
		学びの記録の書き方について具体例を見ながらルーブリックに基づいて理解する。	
評価方法	学びの記録についてのルーブリック		
	学びの記録 評価基準		
	観点①アート思考とはどのようなものか、授業の要点をつかみ整理できているかどうか。		
	A アート思考とはどのようなものなのか、社会的状況との関係性に触れつつ、うまく整理できている。		
	B アート思考とはどのようなものなのか、授業の内容をまとめることができている。		
	C アート思考とはどのようなもののかをうまくまとめることができている。		
	観点②アート思考についての理解を踏まえて、自分が「アート思考」をどう思うのか、指摘や疑問ができている。		
	A アート思考が自分自身や社会にとってどのような役割がありそうか、必要性について指摘や疑問を呈している		
	B アート思考が自分自身や社会にとってどのような役割があるのか、感想を書くことができている。		
	C アート思考について思うところは書けているが、取り立てて鋭くもなく一般的なものである。		
宿題指示	アートノートの作成（5月9日提出）		

授業日	5/9(火)	1 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】②③ 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①		
	本時の具体的な目標 ・写真芸術の歴史的背景を知り、写真がアートとして成立する過程について理解することができる。 ・自らの価値観に応じて写真を選択し、作品を分析し自分の言葉で批評することができる。		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	写真芸術の歴史を概観し、具体的な作品とその評価について講義を行った。 作品を見比べ、作者がいかに「違和感」を画面に定着しようとしたかを想定し、具体的な言葉によって作品を批評することができる。	
評価方法	学びの記録についてのルーブリック		
	観点①	写真がアートであるとはどういうことか理解できているかどうか。	
	A	写真の芸術性について各写真家のポイントを押さえて記述することができている。	
	B	写真の芸術性について記述することができているが、重要なポイントに漏れがある。	
	C	写真の芸術性について記述することができているが、あまりうまく記述できていない。	
	観点②	写真を批評することについて授業の内容や他者の意見から気づきを得ることができるかどうか。	
	A	写真を批評するにあたって浮かんだ疑問、新しい発見、気が付いた「ものの見方」について具体的に記述できている。	
	B	写真を批評するにあたって浮かんだ疑問や発見、気が付いたことを記述することができている。	
C	写真を批評するにあたって浮かんだ感想を記述することができている。		
宿題指示	日常生活から「違和感」を切り取った写真作品を作成し、自ら解説を加え批評する。 ロイロカード（図＋テキスト）を作成し、提出箱へ提出。		

授業日	5/23(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回																
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】②③ 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】③																		
	本時の具体的な目標																		
	・違和感を切り取ったお互いの写真作品を鑑賞し、言説の違いを確認することで解釈の広がりや違和感の捉え方の違いについて気が付くことができる。																		
	・「脱文脈と再文脈化」がアート鑑賞の一つの観点であるということを具体的な作品例を通して理解することができる。																		
	・美術の歴史的な背景を理解することが、作品理解を促すだけでなく異文化の理解につながる点について理解することができる。																		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	写真作品の相互批評と考察（ペアワーク）。「脱文脈と再文脈化」の解説・講義。 美術鑑賞の仕方として歴史的背景を理解することについて実例を交えて解説・講義。 次回のフィールドスタディに対する注意事項を伝達。																	
評価方法	学びの記録についてのルーブリック																		
	<table><tr><td>観点①</td><td>違和感のひとつに「脱文脈と再文脈化」があることが理解できているかどうか。</td></tr><tr><td>A</td><td>脱文脈と再文脈化について適切に説明することができている。</td></tr><tr><td>B</td><td>脱文脈と再文脈化について講義の内容をメモすることができているが十分に理解した記述とは言えない。</td></tr><tr><td>C</td><td>脱文脈と再文脈化について説明をすることができていない。</td></tr><tr><td>観点②</td><td>相互批評することについて他者の意見から気づきを得ることができるかどうか。</td></tr><tr><td>A</td><td>相互批評するにあたって浮かんだ疑問、新しい発見、気が付いた「ものの見方」について具体的に記述できている。</td></tr><tr><td>B</td><td>相互批評するにあたって浮かんだ疑問や発見、気が付いたことを記述することができている。</td></tr><tr><td>C</td><td>相互批評するにあたって浮かんだ感想を記述することができている。</td></tr></table>			観点①	違和感のひとつに「脱文脈と再文脈化」があることが理解できているかどうか。	A	脱文脈と再文脈化について適切に説明することができている。	B	脱文脈と再文脈化について講義の内容をメモすることができているが十分に理解した記述とは言えない。	C	脱文脈と再文脈化について説明をすることができていない。	観点②	相互批評することについて他者の意見から気づきを得ることができるかどうか。	A	相互批評するにあたって浮かんだ疑問、新しい発見、気が付いた「ものの見方」について具体的に記述できている。	B	相互批評するにあたって浮かんだ疑問や発見、気が付いたことを記述することができている。	C	相互批評するにあたって浮かんだ感想を記述することができている。
観点①	違和感のひとつに「脱文脈と再文脈化」があることが理解できているかどうか。																		
A	脱文脈と再文脈化について適切に説明することができている。																		
B	脱文脈と再文脈化について講義の内容をメモすることができているが十分に理解した記述とは言えない。																		
C	脱文脈と再文脈化について説明をすることができていない。																		
観点②	相互批評することについて他者の意見から気づきを得ることができるかどうか。																		
A	相互批評するにあたって浮かんだ疑問、新しい発見、気が付いた「ものの見方」について具体的に記述できている。																		
B	相互批評するにあたって浮かんだ疑問や発見、気が付いたことを記述することができている。																		
C	相互批評するにあたって浮かんだ感想を記述することができている。																		
宿題指示	特になし																		

授業日	5/30(火)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】② 【思考力・判断力・表現力】②【学びに向かう力・人間性】①②③		
	本時の具体的な目標〔兵庫県立美術館でのフィールドスタディ（学芸員の方による対話型鑑賞を含む）〕 ・美術館の機能を知り、作品鑑賞に関する基本的な作法を身に着ける。 ・時間をかけて作品と対峙することで、直接得られる作品の情報を詳細に捉える力を身につける。 ・対話型鑑賞を通じて他者の受け取り方、解釈の広がり、多角的な視野について気づき、自らの考察を昇華させるきっかけとすることができる。		
時間 授業内容	フィールドスタディ	・美術館学芸員のかたのファシリテーションにより実際の作品を前に展示室で対話型鑑賞を行う。作品を徹底的にみることと、感じたことを言語化し共有することで考察の多角化を図る。 ・常設展示の中から「引っかかる作品」を一つ選び、時間をかけて鑑賞する。	
評価方法	フィールドスタディで取り上げた「引っかかる作品」についてアートノートにまとめる課題を評価。 また、この日の授業で鑑賞した作品は6月27日のプレゼン作成につながる一連の学びのテーマとなるため、最終プレゼンがこの授業の評価対象としての成果物となる。		
宿題指示	「引っかかる作品」を一つ選び、アートノートにまとめてくる。 ・作品の基本情報、文化的背景、作者の生い立ちや制作背景などを調べてくる。 ・社会的、歴史的にどのような価値があると位置づけられるのかを考察してくる。 ・自分にとってその作品がどのような意味をもつのか考察してくる。		

授業日	6/6(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②③ 【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】①②③		
	<p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の分析と批評に関する調査方法や記述方法（言説の作り方）を知ることでアートに関するアカデミックスキルを身につける。</li> <li>・対話型鑑賞をファシリテートすることによって、作品への対峙の仕方と解釈の奥行きに着目する姿勢を身につける。</li> </ul>		
時間 授業内容	5 時間目  6 時間目	<p>東浦先生が榎倉康二《無題》の分析を通して「もの派」における「身体性」や諸作品・作家について解説した。上田が東影智弘《浸食 I》と名和晃平《PicCell-Deer#52》の共通点として「界面性」を取り上げ、作品解釈の可能性について説明した。</p> <p>ペアワーク「対話型鑑賞をファシリテートする」を行った。「作品とのやりとり（作品から自分が発見したこと、感じたこと）」を引き出す質問を考え、ペアの相手がその作品により深く向き合うことができるような対話を促すトレーニングとなった。また、そのことで作品解釈の幅が広がり、ファシリテーターにとっても気づきの多いワークとなった。</p>	

評価方法	・ 作品解説から気が付いたこと、考えさせられたことがいかに「深く」掘り下げられているか。
	・ ペアワークを通して対話型鑑賞をうまく促すことができるようになったかどうか。
	ワークシートと学びの記録を兼ねたプリントに生徒が記述したものを以下のルーブリックで評価した。
	ルーブリック
	観点① 今まで知らなかったことに気が付くことができるか。
	S 「気が付いたこと」を具体的に書いているだけでなく、その気づきがアートの問題を考えるとときの鋭い視点に繋がっている。
	A 「気が付いたこと」を具体的に書いているが、単に「知らなかったことを知ることができた」という次元にとどまっている。
	B 知らなかったことを書いているが、そのことに「気づくことができた」という新しさに欠ける。
	C 知らなかったことを気が付いたという点が書けていない。
	観点② 授業中に感じた疑問や感想に対してじっくりと思考することができるか。
	S 「疑問や感想」を具体的に書いているだけでなく、そこから派生する自分の関心や経験に引き付けて授業内容の外延にまで思考が及んでいる。
	A 「疑問や感想」を具体的に書いているだけでなく、関連する事項と結び付けて思考することができる。
	B 「疑問や感想」を具体的に書くことができるが、授業内容の伝達事項の中に納まる思考しかできていない。
	C 「疑問や感想」が具体的ではない。「すごいと思う」「いいと思う」「その通りだと思う」「なるほどと思う」など。
	観点③ ペアワークによって対話型鑑賞をうまく営むことができるか
A 自分の取り上げた作品に対して鑑賞が深まる質問を考えることができ、相手の反応をうまく引き出すことができる。	
B 自分の取り上げた作品に対しての質問を考えることができるが、相手の反応をうまく引き出すことができていない。	
C 自分の取り上げた作品に対してうまく質問を考えることができず、相手の反応を引き出せていない。	
宿題指示	プレゼンテーションに向けてさらに作品について調べてみる。

授業日	6/15(木)	1 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】③ 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】②		
	本時の具体的な目標  ・パブリックアートの歴史や成り立ちを理解し、社会における意義を理解する。  ・アートプロジェクトにおけるパブリックアートの機能について考察し、課題を見出すことができる。		
時間 授業内容	5 時間目      6 時間目	世界におけるパブリックアートの歴史について概観し、社会的機能や諸課題についての講義  日本におけるパブリックアートの分類を理解し、アートプロジェクトと地域社会のアート受容と変容について考察する。  兵庫県立美術館の作品についての分析・批評に関するプレゼンの説明と個人ワーク。	
評価方法	パブリックアートの歴史や成り立ち、種類について理解し記述することができるか、また、パブリックアートに関わる諸問題についていかに考察することができたか、を「学びの記録」によって評価する。		
	ルーブリック		
	観点①パブリックアートの歴史や成り立ち、種類について理解し記述することができるか。		
	A	公共に設置される彫刻は、歴史的にどのようなものとして扱われてきたのかがポイントを押さえて記述できている。	
	B	公共に設置される彫刻の歴史的な推移について触れることができる。	
	C	公共に設置される彫刻の歴史的な推移について触れることができていない。	
	観点②パブリックアートに関わる諸問題について「気づくことができる」または「疑問を持つことができる」		
	A	パブリックアートと社会（地域やコミュニティを含む）に関する諸問題について「気づき」と「疑問」の双方に触れている。	
	B	パブリックアートと社会（地域やコミュニティを含む）に関する授業で取り上げた内容をまとめることができる。	
	C	パブリックアートと社会に関する問題について触れることができていない。	
宿題指示	取り上げた作品に関する詳細の分析、プレゼンの下準備。		

授業日	6/20(火)	1 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①③		
	本時の具体的な目標		
	・作品の「鑑賞・分析・批評」が「事実と主観の往復」であるということを理解することができる。		
	・「鑑賞・分析・批評」を深めるためのプロセスとして「見方を変える」ことを実践することができる。		
時間	5 時間目	作品の「鑑賞・分析・批評」について理解を深めるための講義を行う。	
授業内容	6 時間目	兵庫県立美術館の作品に関するプレゼン作成をグループで行う。「鑑賞・分析・批評」を具体的な作品を通して実践する。	
評価方法	講義とグループワークがともに、次回の「プレゼン発表」の準備に繋がっているため、この授業での取り組み自体は評価せず、プレゼン発表での内容や表現を対象とする。		
宿題指示	グループで連携しながら、プレゼンテーションを完成させてくる。		

授業日	6/27(火)	1 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回																																
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②③ 【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】①②③																																		
	本時の具体的な目標																																		
	・作品の「鑑賞・分析・批評」に関して一定のまとまりをもった言説を構築しアウトプットすることができる。																																		
	・プレゼンテーションの実践を通して基本的なスキルを身に付けることができる。																																		
時間 授業内容	5・6 時間目	班ごとのプレゼンテーション。																																	
		1 班 「身の回りの物」を非現実的な物として提示する作品																																	
		2 班 日本近代洋画家の技法と戦争																																	
		3 班 切り取ることの危険性「政治的社会的テーマを有する作品」																																	
		4 班 ジム・ダインの作品における人工と自然																																	
		5 班 もの派における関係性と相反性																																	
		6 班 デジタルアートとデザイン																																	
		7 班 シュールレアリスムと人間存在の本質																																	
		ルーブリックに基づいた相互評価をしながらプレゼンテーションを聞く。その内容に関しての質疑応答を含め、7分間を有意義に活用していた。																																	
評価方法	<table><tr><td colspan="2">観点1 作品をよく分析し、批評することができるか。</td></tr><tr><td>5 点</td><td>作品を構成する要素（素材・モチーフ・配置・色や形・様式）を分析し、その意味や特徴を捉えて意義を見出すことができる。</td></tr><tr><td>3 点</td><td>作品を構成する要素（素材・モチーフ・配置・色や形・様式）をよく分析することができる。</td></tr><tr><td>1 点</td><td>作品を構成する要素（素材・モチーフ・配置・色や形・様式）について触れることができる。</td></tr><tr><td colspan="2">観点2 作品に関する知識、歴史的価値や社会的評価について批評することができるか。</td></tr><tr><td>5 点</td><td>作者の考え方や作品の生まれた時代や歴史、文化的価値を理解し、社会・環境に与えた影響に関して意義を見出すことができる。</td></tr><tr><td>3 点</td><td>作者の考え方や作品の生まれた時代や歴史、文化的価値をよく調べ、述べることができる。</td></tr><tr><td>1 点</td><td>作者の考え方や作品の生まれた時代や歴史、文化的価値について触れることができる。</td></tr><tr><td colspan="2">観点3 自分(達)なりの感じ方・捉え方をすることができるか。</td></tr><tr><td>5 点</td><td>作品の主題や造形、作品にまつわる知識や他者の見解に対し、自分（達）の見方・感じ方を細かく具体的に表現することができる。</td></tr><tr><td>3 点</td><td>作品の主題や造形について自分なりの言葉で捉えることができる。</td></tr><tr><td>1 点</td><td>作品について興味・関心を示している。</td></tr><tr><td colspan="2">観点4 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか</td></tr><tr><td>5 点</td><td>プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。</td></tr><tr><td>3 点</td><td>プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。</td></tr><tr><td>1 点</td><td>プレゼンに対して十分に準備をしてきたとは言えない、あるいは、声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。</td></tr></table>			観点1 作品をよく分析し、批評することができるか。		5 点	作品を構成する要素（素材・モチーフ・配置・色や形・様式）を分析し、その意味や特徴を捉えて意義を見出すことができる。	3 点	作品を構成する要素（素材・モチーフ・配置・色や形・様式）をよく分析することができる。	1 点	作品を構成する要素（素材・モチーフ・配置・色や形・様式）について触れることができる。	観点2 作品に関する知識、歴史的価値や社会的評価について批評することができるか。		5 点	作者の考え方や作品の生まれた時代や歴史、文化的価値を理解し、社会・環境に与えた影響に関して意義を見出すことができる。	3 点	作者の考え方や作品の生まれた時代や歴史、文化的価値をよく調べ、述べることができる。	1 点	作者の考え方や作品の生まれた時代や歴史、文化的価値について触れることができる。	観点3 自分(達)なりの感じ方・捉え方をすることができるか。		5 点	作品の主題や造形、作品にまつわる知識や他者の見解に対し、自分（達）の見方・感じ方を細かく具体的に表現することができる。	3 点	作品の主題や造形について自分なりの言葉で捉えることができる。	1 点	作品について興味・関心を示している。	観点4 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか		5 点	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。	3 点	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。	1 点	プレゼンに対して十分に準備をしてきたとは言えない、あるいは、声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。
観点1 作品をよく分析し、批評することができるか。																																			
5 点	作品を構成する要素（素材・モチーフ・配置・色や形・様式）を分析し、その意味や特徴を捉えて意義を見出すことができる。																																		
3 点	作品を構成する要素（素材・モチーフ・配置・色や形・様式）をよく分析することができる。																																		
1 点	作品を構成する要素（素材・モチーフ・配置・色や形・様式）について触れることができる。																																		
観点2 作品に関する知識、歴史的価値や社会的評価について批評することができるか。																																			
5 点	作者の考え方や作品の生まれた時代や歴史、文化的価値を理解し、社会・環境に与えた影響に関して意義を見出すことができる。																																		
3 点	作者の考え方や作品の生まれた時代や歴史、文化的価値をよく調べ、述べることができる。																																		
1 点	作者の考え方や作品の生まれた時代や歴史、文化的価値について触れることができる。																																		
観点3 自分(達)なりの感じ方・捉え方をすることができるか。																																			
5 点	作品の主題や造形、作品にまつわる知識や他者の見解に対し、自分（達）の見方・感じ方を細かく具体的に表現することができる。																																		
3 点	作品の主題や造形について自分なりの言葉で捉えることができる。																																		
1 点	作品について興味・関心を示している。																																		
観点4 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか																																			
5 点	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。																																		
3 点	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。																																		
1 点	プレゼンに対して十分に準備をしてきたとは言えない、あるいは、声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。																																		
宿題指示	特になし																																		



授業日	9/5(火)	2 学期授業回数	1 回目 / 全 10 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】②③ 【思考力・判断力・表現力】②【学びに向かう力・人間性】①		
	本時の具体的な目標  ・ アートに関連した入門書を 2 冊以上読み、基本的な知識を自分事として身に付けることができる。  ・ 様々な書物に触れることでアートを取り巻くトピックスが多岐にわたるということを知ることができる。  ・ 自分がアートと社会の関係においてどのようなトピックスに興味があるかを気づきかけとすることができる。		
時間	5 時間目	「 2 0 冊の課題図書」から 1 冊と任意の 1 冊の合計 2 冊を 2 分のブックトークにて紹介する。	
授業内容	6 時間目	プレゼン資料の工夫や限られた時間内で重要な内容を説明するプレゼンスキルを意識する。	
評価方法	教員からは以下の評価基準に基づいて 1 冊につき 5 点を満点として点数化。		
	相互評価は全員に対して A ～ C で評価をすることとした。		
	評価基準（ルーブリック）		
	観点：文献を十分に熟読し内容を自分事として吸収できているかどうか。		
	A	具体的な本文の表現を引き合いに、自分なりの考えを付け加えて解説できている。	
B	具体的な本文の表現を抜き出すことはできているが、それに対する考えが十分ではない。		
C	図書の概要は説明的であるが、飛ばし読みやあらすじを読めばできる範囲でしかない。		
宿題指示	※夏期フィールドスタディに行った生徒は振り返りを C l a s s i に入力し提出する。		

授業日	9/12(火)	2 学期授業回数	2 回目 / 全 10 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】③ 【思考力・判断力・表現力】③【学びに向かう力・人間性】①②		
	本時の具体的な目標  ・ 直島の事例を通してアートプロジェクトの社会における機能を理解することができる。  ・ 地域社会におけるアート受容のメリットとデメリットについて先行研究論文から理解することができる。  ・ アートの機能について自分なりの言葉で語ることができる。		
時間	5 時間目	「アートと地域づくり」についての講義（直島の事例と社会学論文の講読）	
授業内容	6 時間目	阪神間におけるアートの関りについて分析しプレゼンにまとめるよう指示  アートライター大賞への応募方法の確認	
評価方法	観点① 直島がアートの島として島民に受け入れられていった過程を理解できるかどうか。		
	A	島にアートを設置するときに鍵となった考え方と、課題となった点について触れることができている。	
	B	島にアートを設置する時系列について過不足なくまとめることができている。	
	C	島にアートを設置する時系列について触れることができている。	
	観点② アートプロジェクトが地域に与える機能について自分の言葉で語ることができるかどうか。		
	A	アートプロジェクトが地域に与える機能にはどのようなものがあるのか、説明できている。	
	B	アートプロジェクトが地域に与えた影響について具体例を挙げている。	
	C	アートプロジェクトについては触れているが、その機能や影響については触れていない。	
	学びの記録に思考のプロセスと授業内容を整理し記述させ、上記のルーブリックにより評価した。		
	宿題指示	① アートライター大賞への応募のため添削後のエッセイを体裁修正してから手続きをすること。9月20日まで  ② 地域とアートについて事例分析を行い、プレゼン資料をまとめる。9月26日まで	

授業日	9/26(火)	2 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②③ 【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・ 阪神地区におけるパブリックアートやアートプロジェクトの実態について調査し理解することができる。 ・ アートが地域に設置されている、またはプロジェクトが遂行されていることの効果について評価することができる。		
時間	5 時間目	準備してきた阪神間のアートやプロジェクトについてグループ内で相互にプレゼンをする。	

授業内容	6 時間目	同じテーマに基づいてグループ分けを行い、取り上げたアートプロジェクトが地域をどのように変化させることができたかについて仮説を立てる。
評価方法	提出したプレゼン資料  第 3 回～第 7 回の授業の学びのプロセスについては、第 7 回のプレゼン発表の際の相互評価やレポート、その裏面のメモ等によって評価する。	
宿題指示	特になし	

授業日	10/3(火)	2 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】③ 【思考力・判断力・表現力】③【学びに向かう力・人間性】①②③		
	本時の具体的な目標  ・アートの地域における機能について研究者の話を直接聞くことで調査や検証の具体的な事例を自らの探究の実践につなげることができる。  ・グループ内で役割を分担し、現地調査や作品鑑賞についてフィールドワークの計画を立てることができる。		
時間	5 時間目	滋賀大学宮本結佳先生によるご講演（ZOOM）「アートと地域づくりの社会学」をもとに	
授業内容	6 時間目	グループワークによってフィールドワークの計画書を作成する。	
評価方法	提出したプレゼン資料  第3回～第7回の授業の学びのプロセスについては、第7回のプレゼン発表の際の相互評価やレポート、その裏面のメモ等によって評価する。		
宿題指示	講演の振り返りとして、C l a s s i アンケートに回答する。  グループ内で連絡を取り合い、フィールドワークの計画書を完成させる。		

授業日	10/17(火)	2 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】② 【思考力・判断力・表現力】②③【学びに向かう力・人間性】②③		
	本時の具体的な目標  ・ 六甲アイランド彫刻群、西宮浜彫刻群の現地調査を行い、アートと周辺環境との関係性について考察することができる。  ・ アートの設置された地域住民の意識について聞き取り調査を行いデータを収集することができる。		
時間  授業内容	5・6 時間目	19 人は六甲アイランドへ赴き、小磯記念美術館のスタッフの方から神戸市における彫刻設置の歴史的経緯や現在の取り組みについて、また、六甲アイランドにおける彫刻を使った地域の取り組みについて解説を頂いた。そののち、各グループに分かれて彫刻の現地調査、市民への聞き取り調査を行った。また、11 名は西宮浜へ出向き、現地の彫刻についての情報収集と聞き取りとり調査を行った。	
評価方法	第 3 回～第 7 回の授業の学びのプロセスについては、第 7 回のプレゼン発表の際の相互評価やレポート、その裏面のメモ等によって評価する。		
宿題指示	グループ内で連絡を取り合い、プレゼンテーションの資料を整理しておく。		

授業日	10/24(火)	2 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】② 【思考力・判断力・表現力】②③【学びに向かう力・人間性】②③ ----- 本時の具体的な目標  ・ フィールドワークで集めた情報を分析し地域におけるアートの在り方を評価することができる  ・ グループで意見を交わしながらプレゼンテーションを作り上げることができる。		
時間 授業内容	5・6 時間目	グループワーク  何を目的としてプレゼンを作成するのか、集めた情報や作品鑑賞をどう活かすのかについて話し合いをした。	



評価方法	第3回～第7回の授業の学びのプロセスについては、第7回のプレゼン発表の際の相互評価やレポート、その裏面のメモ等によって評価する。
宿題指示	11月14日のプレゼン本番までにグループで連絡を取り合い、プレゼンテーションを完成させておく。

授業日	11/14(火)	2 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回																																
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】②③ 【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】①②③																																		
	本時の具体的な目標																																		
	・ 地域におけるアートの機能について実地調査に基づいた分析を行い、現状に批評を加えることができる。																																		
	・ 地域におけるアートの機能について現状を批評したうえで、行政に対して改善策を提示することができる。																																		
	・ フィールドスタディの結果を課題解決のプロセスとして有効に位置づけることができる。																																		
	・ グループワークを通して適切な役割分担でプレゼンテーションを完成させることができる。																																		
時間 授業内容	5 時間目  6 時間目	6 つのグループがそれぞれにプレゼンテーションを行う。																																	
		1 班 6 班「西宮浜アート計画」																																	
		2 班 3 班「K O B E W A T E R F R O N T A R T P R O J E C T」																																	
		4 班「六甲アイランド彫刻群」																																	
		5 班「六甲ミーツ・アート」																																	
		神戸市文化交流課の武村様と、編集者美術家の岩淵様をゲストとしてお招きし、講評と激励を頂いた。																																	
		武村様からは、文化政策の観点からいかに地域資源としてアートが活用されていくべきか、生徒の提案に感心され今後の行政の参考にしたいと激励の言葉を頂いた。また、岩淵様からは、アートでなければならない役割とは何か、という問いを頂き、一人一人が作品に向き合う姿勢の大切さを再認識させていただいた。																																	
		最優秀グループ発表として 6 班が選ばれ、「探究の集い」のポスターセッションへの応募をすることが決まった。																																	
評価方法	<table><tr><td colspan="2"><b>観点1 アートによってどのような課題がどう解決に向かっているのか、または向かうことができていないのかについて分析できている。</b></td></tr><tr><td>10 点</td><td>様々な資料や調査の結果を活用し地域の課題を的確にとらえ、そこへアートがどのような影響を与えているのかが具体的に述べられている。</td></tr><tr><td>5 点</td><td>地域の課題について調べることができており、アートがその課題とどのように関係しているのかについて述べている。</td></tr><tr><td>1 点</td><td>地域の課題についての表現が抽象的で、アートがその課題をどのように関係しているのかがよくわからない説明になっている。</td></tr></table> <table><tr><td colspan="2"><b>観点2 調査や分析の方法が多岐にわたり、発表に信ぴょう性を持たせることができています。</b></td></tr><tr><td>5 点</td><td>①HP の情報、②文献資料からの情報、③インタビューからの情報、④その他の情報を十分に取り入れ、うまく活用できている。</td></tr><tr><td>3 点</td><td>①HP の情報、②文献資料からの情報、③インタビューからの情報を取り入れているが、調査に労を要したとは言えない表面的なものである。</td></tr><tr><td>1 点</td><td>HP で調べたことを並べかえているだけで、情報としての価値を見出すことはできない。</td></tr></table> <table><tr><td colspan="2"><b>観点3 「アートと地域の関わり」について自分(達)なりの感じ方・捉え方をすることができているか。</b></td></tr><tr><td>5 点</td><td>「アートと地域の関わり」はどのようなものであると言えるのか、自分たちの言葉で捉え、独自の発見や考えを述べている。</td></tr><tr><td>3 点</td><td>「アートと地域の関わり」はどのようなものであると言えるのか、自分たちの言葉で説明することができている。</td></tr><tr><td>1 点</td><td>「アートと地域の関わり」について意見を述べていることができていない。</td></tr></table> <table><tr><td colspan="2"><b>観点4 「アート」そのものの鑑賞ができているか。</b></td></tr><tr><td>5 点</td><td>作品そのものを「よく見る」とともに、その場所にその作品があることの「固有の意味」について見出すことができています。</td></tr><tr><td>3 点</td><td>形や素材、大きさなど、作品そのものを「よく見る」ことができている。</td></tr><tr><td>1 点</td><td>作品そのものを「よく見る」ことができていない。</td></tr></table> <p>ルーブリックに基づいた相互評価においてグループプレゼンの内容を評価した。</p> <p>また、教員やゲストもおなじ指標で評価し、点数化する。</p>			<b>観点1 アートによってどのような課題がどう解決に向かっているのか、または向かうことができていないのかについて分析できている。</b>		10 点	様々な資料や調査の結果を活用し地域の課題を的確にとらえ、そこへアートがどのような影響を与えているのかが具体的に述べられている。	5 点	地域の課題について調べることができており、アートがその課題とどのように関係しているのかについて述べている。	1 点	地域の課題についての表現が抽象的で、アートがその課題をどのように関係しているのかがよくわからない説明になっている。	<b>観点2 調査や分析の方法が多岐にわたり、発表に信ぴょう性を持たせることができています。</b>		5 点	①HP の情報、②文献資料からの情報、③インタビューからの情報、④その他の情報を十分に取り入れ、うまく活用できている。	3 点	①HP の情報、②文献資料からの情報、③インタビューからの情報を取り入れているが、調査に労を要したとは言えない表面的なものである。	1 点	HP で調べたことを並べかえているだけで、情報としての価値を見出すことはできない。	<b>観点3 「アートと地域の関わり」について自分(達)なりの感じ方・捉え方をすることができているか。</b>		5 点	「アートと地域の関わり」はどのようなものであると言えるのか、自分たちの言葉で捉え、独自の発見や考えを述べている。	3 点	「アートと地域の関わり」はどのようなものであると言えるのか、自分たちの言葉で説明することができている。	1 点	「アートと地域の関わり」について意見を述べていることができていない。	<b>観点4 「アート」そのものの鑑賞ができているか。</b>		5 点	作品そのものを「よく見る」とともに、その場所にその作品があることの「固有の意味」について見出すことができています。	3 点	形や素材、大きさなど、作品そのものを「よく見る」ことができている。	1 点	作品そのものを「よく見る」ことができていない。
<b>観点1 アートによってどのような課題がどう解決に向かっているのか、または向かうことができていないのかについて分析できている。</b>																																			
10 点	様々な資料や調査の結果を活用し地域の課題を的確にとらえ、そこへアートがどのような影響を与えているのかが具体的に述べられている。																																		
5 点	地域の課題について調べることができており、アートがその課題とどのように関係しているのかについて述べている。																																		
1 点	地域の課題についての表現が抽象的で、アートがその課題をどのように関係しているのかがよくわからない説明になっている。																																		
<b>観点2 調査や分析の方法が多岐にわたり、発表に信ぴょう性を持たせることができています。</b>																																			
5 点	①HP の情報、②文献資料からの情報、③インタビューからの情報、④その他の情報を十分に取り入れ、うまく活用できている。																																		
3 点	①HP の情報、②文献資料からの情報、③インタビューからの情報を取り入れているが、調査に労を要したとは言えない表面的なものである。																																		
1 点	HP で調べたことを並べかえているだけで、情報としての価値を見出すことはできない。																																		
<b>観点3 「アートと地域の関わり」について自分(達)なりの感じ方・捉え方をすることができているか。</b>																																			
5 点	「アートと地域の関わり」はどのようなものであると言えるのか、自分たちの言葉で捉え、独自の発見や考えを述べている。																																		
3 点	「アートと地域の関わり」はどのようなものであると言えるのか、自分たちの言葉で説明することができている。																																		
1 点	「アートと地域の関わり」について意見を述べていることができていない。																																		
<b>観点4 「アート」そのものの鑑賞ができているか。</b>																																			
5 点	作品そのものを「よく見る」とともに、その場所にその作品があることの「固有の意味」について見出すことができています。																																		
3 点	形や素材、大きさなど、作品そのものを「よく見る」ことができている。																																		
1 点	作品そのものを「よく見る」ことができていない。																																		
宿題指示	相互評価におけるコメント記入と、ポートフォリオとしての自己省察を記入したプリントを完成させ、次回の授業までに提出。																																		

授業日	11/21(火)	2 学期授業回数	8回目 / 9回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】③ 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①		
	本時の具体的な目標		
	・ 20 世紀の美術史を概観することで、現在に至るアートの潮流を理解することができる。		
	・ 印象派、フォービズム、エコール・ド・パリ、シュルレアリスム、ダダイズムなどの用語の指し示す内容や作家や作品との関係について理解することができる。		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	20 世紀に至るまでの美術史の概観から、印象派の登場を経て方々へ展開していくアートの潮流について時系列にて解説を行った。特に、ダダイズムやシュルレアリスムという現象がいかなる思想的背景を持ち、作品にどのように表れているのかに力点を置き、理解を促した。	
評価方法	3 学期に「知識・技能」の評価のため知識・理解の到達度を測るペーパーテストを行う。		
宿題指示	特になし		

授業日	11/28(火)	2 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】③ 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①		
	本時の具体的な目標 ・ 20 世紀の美術史を概観することで、現在に至るアートの潮流を理解することができる。 ・ アメリカの抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、コンセプチュアルアートなどの用語の指し示す内容や作家や作品との関係について理解することができる。 ・ 現在のアートシーンが 20 世紀の潮流とどのように連関しているのかをイメージすることができる。		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	戦後アメリカの美術史を中心に、社会的背景や思想的背景がアートの表現にどのような影響をもたらしたのかについて解説を行った。特に、ポップアートはアメリカ大衆主義から必然的に表れた芸術運動であっただけでなく、アンディーウォーホールという作家個人がもたらしたアートの在り方が以後の潮流に影響をもたらしている点を押さえた。さらに、ジョセフ コスースらによってアートがコンセプチュアルであることが再確認され、現代の芸術表現の在り方に繋がっているという見方を示した。いわゆる、現代アートが複雑で難解であることとされることの自覚的になり、その解釈に挑む姿勢を身につける動機とした。	
評価方法	3 学期に「知識・技能」の評価のため知識・理解の到達度を測るペーパーテストを行う。		
宿題指示	特になし		

授業日	1/16(火)	3 学期授業回数	1 回目 / 全 5 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③		
	本時の具体的な目標  ・作品の鑑賞を通して受け取った情報やそこから想起した感情に関して言語化できる表現力を身につける。  ・作品を五感を使って解釈する観点を知り、多角的な見方で作品に対峙することができる。  ・具体美術協会に所属した作家の作品について理解する。		
時間 授業内容	5 時間目  6 時間目	吉原治郎、松谷武判、堀江貞治の実物の作品を順番に鑑賞し、自由に感想を言語化する。  また、その際には五感を使って捉える観点を意識することで、オノマトペや比喩などの表現力の向上を図る。  作品の制作過程や使用素材を知ることや、他者と意見を交換することで多角的な見方に繋げる。	
評価方法	アートノートへの記入内容によって評価。		
宿題指示	特になし		

授業日	1/23(火)	3 学期授業回数	2 回目 / 全 5 回
本時 学習目標	<div>主なターゲット【知識・技能】③ 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①</div> <div>本時の具体的な目標</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・吉原治良の作風の変化を分析し、具体美術協会の結成の経緯と出来事との関係を理解することができる。</li><li>・具体美術協会が目指した作品における物質性について作品を用いて自分の言葉で表現することができる。</li></ul>		
時間 授業内容	5 時間目  6 時間目	<div>吉原治良の作品を時系列に比較して、作風の変化のポイントを根拠を示して説明する。また、吉原治良の具体美術協会への考えについて「具体」誌創刊号の冒頭文と芸術新潮への寄稿文「具体美術宣言」を読み解くことで理解する。</div> <div>そこから、得られた情報を元に具体的な作品をつうじて具体美術協会が目指した物質性の体現について自分たちの言葉で説明する。</div>	
評価方法	自習に行うプレゼンや資料の提出によって評価する。		
宿題指示	プレゼンや資料の準備。		

授業日	1/30(火)	3 学期授業回数	3 回目 / 全 5 回
本時 学習目標	<div>主なターゲット【知識・技能】②③   【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】②③</div> <div>本時の具体的な目標</div> <div><div>・具体美術協会において目指されたアートの概念を「具体」という語を通して理解することができる。</div><div>・プレゼンテーションや省察を通して、アートの概念を言語化することができる。</div></div>		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	<div>プレゼンテーションの準備や個人ワークの資料づくり</div> <div>1 班から 7 班による 3 分程度のプレゼンテーションを行う。また、聴衆は手元のフィードバックシートやルーブリックを用いて相互評価を行う。</div>	
評価方法	<div>プレゼンテーションや資料提出に対する相互評価と教員評価。</div> <div>本時の学びを通して取り組む課題に対して思考の深まりや活用能力を評価。</div> <div>[ルーブリック評価基準]</div> <div>観点 1：具体美術協会における作品は「何が描かれているのかわからない」「何を意味しているのか明確でない」といえる。それは、「何が実際にあるものを表している作品」でないからである。では、具体美術協会がいう「具体」とはどのようなもの、状態を指すのであろうか。その「答え」が明瞭に示されていれば 5 点。</div> <div>観点 2：その「答え」に至るまでに、どのような情報をもとにそう考えたのか、そして、その結論に至るまでにどのように考えたのか明確に示されているかどうか。</div> <div>観点 3：具体美術協会における「具体」が体現された作品を実際に取り上げて説明することができているかどうか。</div>		

宿題指示	<p>フィードバックを完成させる。</p> <p>課題「あなたが学芸員として鑑賞者にアドバイスするとすれば、具体美術協会の作家の作品を鑑賞するときのポイントをどのように説明しますか」について記述してくる。</p>
------	--

授業日	2/6(火)	3 学期授業回数	4 回目 / 全 5 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】②③ 【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】①②③		
	本時の具体的な目標		
	・グループまたは個人で課題の解決に向けて試行錯誤し一つの仮説または提案につなげることができる。		
	・地域におけるアートの機能、アートについての思考、対話型鑑賞と作品解説のそれぞれに関して各自の知識や見識を深めることができる。		
時間 授業内容	5 時間目	探究ピアティーチングの会に向けて、それぞれのグループで発表の内容を精査し、資料の作成等を行った。また、	
	6 時間目	対話型鑑賞は実際の鑑賞者を想定したシミュレーションを行った。	
評価方法	ピアティーチングの時に配られるリフレクションシートによって評価する。		
宿題指示	各グループで本番に向けてのスキームを確認し、十分な準備をしたうえで当日を迎えられるようにする。		

授業日	2/15(木)	3学期授業回数	行事												
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】②③ 【思考力・判断力・表現力】②③【学びに向かう力・人間性】②③ 本時の具体的な目標 ・アートを学んでいない生徒に対して自分たちの探究の観点や思考のプロセスを理解してもらうことができる ・自分の発表を通して自らの学びをメタ認知し、今後の探究のヒントを得ることができる														
時間 授業内容	5時間目 6時間目	探究五科目の授業を受ける生徒からプレゼンテーションやワークショップを受ける。 アートは、①地域におけるアートの機能、②アートについて考えたこと、③対話型鑑賞と具体美術協会、をテーマに4つのグループに分かれて発表をした。それぞれの学びについて李深められたところと、まだまだ理解の追いついていないところとが明らかになった。													
評価方法	リフレクションシートの提出によって以下の観点で評価する。 <table><tr><td>観点1</td><td>発表の内容を的確に捉えて、内容を正確に把握することができるか。</td></tr><tr><td>観点2</td><td>自身の探究の切り口や考察の方法を言語化できるか。</td></tr><tr><td>観点3</td><td>発表の内容や手法に対して具体的な事柄にふれつつ、十分に考察することができているか。</td></tr><tr><td>観点1</td><td>各発表の内容を的確に捉えて、内容を正確に把握することができるか。</td></tr><tr><td>観点2</td><td>他者の探究の切り口や考察の方法を自身と比較し、異なる点を見出して言語化できるか。</td></tr><tr><td>観点3</td><td>発表の内容や手法に対して具体的な事柄にふれて、適切なアドバイスや疑問を提示できるか。</td></tr></table>			観点1	発表の内容を的確に捉えて、内容を正確に把握することができるか。	観点2	自身の探究の切り口や考察の方法を言語化できるか。	観点3	発表の内容や手法に対して具体的な事柄にふれつつ、十分に考察することができているか。	観点1	各発表の内容を的確に捉えて、内容を正確に把握することができるか。	観点2	他者の探究の切り口や考察の方法を自身と比較し、異なる点を見出して言語化できるか。	観点3	発表の内容や手法に対して具体的な事柄にふれて、適切なアドバイスや疑問を提示できるか。
観点1	発表の内容を的確に捉えて、内容を正確に把握することができるか。														
観点2	自身の探究の切り口や考察の方法を言語化できるか。														
観点3	発表の内容や手法に対して具体的な事柄にふれつつ、十分に考察することができているか。														
観点1	各発表の内容を的確に捉えて、内容を正確に把握することができるか。														
観点2	他者の探究の切り口や考察の方法を自身と比較し、異なる点を見出して言語化できるか。														
観点3	発表の内容や手法に対して具体的な事柄にふれて、適切なアドバイスや疑問を提示できるか。														
宿題指示	リフレクションシートを完成させてくる。 アートの知識確認テストの準備をしてくる。														

授業日	2/20(火)	3 学期授業回数	5 回目 / 全 5 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】②③   【思考力・判断力・表現力】②【学びに向かう力・人間性】①		
	本時の具体的な目標  ・アートに関する基本的な知識を定着させることができる。  ・今年度に学んだアートの概念を変えた作品と作家の史的意義を理解することができる。		
時間	5 時間目	アートテストの勉強と基本的事項の確認	
授業内容	6 時間目	ウェブテストによるアートテストの実施	
評価方法	アートテストの点数（１００点満点）		
宿題指示	ピアティーチングの質問に対する答えを考えておく		